

地域おこし協力隊通信

真夏の特大号

vol.28



暑中お見舞い申し上げます。

近年、暑い夏が続いていますが、今年も酷暑の夏がやってきました。「昔はこんなに暑い日が続くことなんてなかったらぁ」とのご近所さんたちの声が聞こえてくる毎日。日中に外で作業される方は、水分補給にお気を付けください。無理はせず、エアコンを使って熱中症予防を行ってください。

今月の協力隊通信は、7月、8月号合併の見開きでのプチ特大号となります。6月に新しく入隊した地域おこし協力隊員や、協力隊OG・OBネットワーク TABANET.（タバネット）主催の第三回地域おこし協力隊 林間学校のレポート、OG 伊東さんの狍友会射撃県大会、丹波山村のふるさと大使に就任したユーチューバーK村長の活動の様子をお伝えします。



新しい風を吹き込むベテラン隊員！

小島 健太郎 さん
こじま けんたろう

小島さんの豊富な経験と知識、そして新たな挑戦への意欲が、丹波山村にどのような新しい風を吹き込んでくれるのか、今からとても楽しみです！村民の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

林業の専門知識に加え、今後は銃猫や罠猫にも興味があるそうで、「実体験を通じて経験を積みたい」という意欲も高く、地域の暮らしに深く根ざした活動も期待されます。

「体が動くうちに」と移住先を探されていた小島さんは、東京にこだわらず、行政の立場から地方と関わってきた経験を活かしたいという強い思いから、丹波山村の協力隊員になることを選んだそうです。

小島さんは、林野庁で林業関係の仕事に携わってこられました。過去に山梨県庁への出向経験も持ちで、丹波山村のことは以前から知っていたとのこと。丹波山村の豊かな森林資源を活かした地域活性化に、これまでの繋がりを経験を活分に活かしてくれることでしよう。

この度、2025年6月より、丹波山村に地域おこし協力隊員として小島健太郎さん（60歳）が着任されました！長年の行政経験と林業への深い知見を持つ、ベテランの協力隊員です。

未来への羅針盤を描いた一日 地域おこし協力隊 林間学校

7月3日、丹波山村地域おこし協力隊サポーターズ「TABANET・(タバネット)」主催の交流会「第三回地域おこし協力隊林間学校「丹波山村」が、交流促進センターで開催されました。

今回は、村内のOBOGや現役隊員に加え、山梨県内はもちろん、東京都、埼玉県からも多数の参加者が集結。総勢29人が一同に会し、地域おこしに関する活発な意見交換と交流を深めました。

総務省地域おこし協力隊アドバイザーの吉村 佑太さんを講師にお招きしました。吉村さんからは、隊員の日々の活動に役立つ情報はもちろん、任期終了後のキャリア形成に繋がる貴重なお話が共有されました。

特に参加者の注目を集めたのは、任期終了後を見据えたロードマップの作成方法に関するレクチャーです。具体的なステップや考え方を学ぶことで、漠然としがちだった未来への道筋がより明確にすることの大切さを参加者に伝えました。

参加者からは「協力隊制度の活用について改めて知ることが出来た」、「自分の活動の振り返りと、これからの方向性を決める良い機会になった」などの感想がありました。

全国各地で活動する隊員たちが繋がり、互いに刺激し合うこの「林間学校」は、参加者一人ひとりが自身の未来への一歩を踏み出すための「羅針盤」を見つけた、実り多い一日となりました。



丹波山村地域おこし協力隊サポーターズ
主催：TABANET.

激闘！全国に肉薄



更新する快挙。
昨年、初出場でいきなりの2位という番狂わせを演じた伊東さん。その鮮烈なデビューは、レディース部門のベテラン選手たちに研究と研鑽を促すことになり、山梨の女子射撃界全体をレベルアップさせる結果となった。

熱戦が繰り広げられた山梨県猟友会フィールド射撃県大会（7月19日、静岡県須山射撃場）で、丹波山村から出場した地域おこし協力隊OGの伊東真由さんが、レディース部門で堂々の3位入賞を果たした。惜しくも全国大会（岩手開催）への切符は逃したものの、自己ベストを

ノーマークの初出場からライバルへ



最初の「10mトラップ」で伊東さんは、自己ベストとなる25枚中20枚を命中！トップとの差はわずか2点。続く「5mダブルトラップ」では、さらに接近する標的に加え、白い標的を撃つとマイナス2点、撃たなければプラス2点という、瞬時の判断力が試された。
ここで先ほどトップだった選手と同点の25点をマーク。冷静な対応を見せた。昨年は引き離されたダブルでトップとの点差はわずか2点と大健闘。上位3名が文字通り「纏れる」大接戦となり、勝負の行方は最後の「スキート射撃」へと持ち越された。

猛追空しく3位

この日は強風が吹き、標的の軌道をさらに複雑にするコンディション。普段はスキートを得意とするはずの伊東さんも、序盤の1番、2番射台でまさかの失中。これが響き、後半に猛追を見せたものの、無情にもトップと2点差、合計4点差の3位で競技を終えた。

全国大会への切符は掴めなかったものの、自己ベストを更新。今回の記録は男子の上位グループにも匹敵する好成績。試合終了後には、ライバルとして意識し合っていた女子選手たちと、笑顔で言葉を交わす姿が印象的だった。

「本物のライバル」として認められ、今後は他の大会への参加も勧められたという伊東さん。来年は、さらなる飛躍を遂げることは間違いない。その活躍から目が離せない！



昨年に引き続き団体戦2位の東部地区

ユーチューバー

Youtuber

ふるさと大使
快挙就任



YouTuber K村長 プロフィール

YouTuber歴10年を超えるベテランYouTuber「K村長」。「K村長の村ちゃん!!!【ニッポン全国事業開拓ドキュメンタリーちゃんねる】」を運営し、ニッポン全国での事業開拓を目指すプロジェクトを展開中です。特に山梨県丹波山村に地縁を持ち、丹波山村にある祖父の自宅のDIYや養蜂の様子など、二拠点生活における様々な挑戦と日々の奮闘を配信しています。

村長から村長へ

自身の動画チャンネルで丹波山村の魅力を発信する人気ユーチューバー「K村長」を、丹波山村ふるさと大使に任命いたしました。令和7年6月19日、丹波山村役場にて委嘱式が執り行われ、木下喜人村長より委嘱状が手渡されました。

今回の委嘱式では、木下喜人村長から「村長から村長へ」という異例の構図で委嘱状が手渡され、会場は和やかな雰囲気になりました。

木下村長は、委嘱にあたり「毎日のように丹波山の活動を動画にしてくれてありがとうございます。この村はまだまだ発信力が足りていない。これを機会に、丹波山村の魅力をさらに広く発信してほしい」と、K村長への期待を語りました。

委嘱状を受け取ったK村長は、「子供の頃からお盆などに父に連れて来てもらい、ゆかりのある地です。丹波山ならではの事業を生み出し、雇用を作れたらいいな、と思っています」と、ふるさと大使としての抱負と、丹波山村への貢献意欲を力強く述べました。村の魅力を広く発信するK村長の活動を地域おこし協力隊の初田がサポートします。

村内の施設やイベントなどで見かけることもあるかと思えます。村民の皆様にもご協力頂くこともあるかも知れません。その時はどうぞよろしくお願いいたします。

